さまざまの人生⑧

黄昏の銀座

岡崎英生

黄昏の銀座は、どことなくなまめかしい。少くとも、宮田清造にはそう見える。彼はこの街に、数々の思い出があった。

宮田は今、三越の角に立って、娘の涼子を待ちながら、次第にきらめきを増してゆく銀座のネオンを眺めていた。

「いつかも、俺はここでこうして女を待っていた」

と彼は考えた。

三越の前から眺める銀座の景色に、宮田の胸の中にある二十年前の銀座が重なり、思い出が、甘く匂った。

「いい女だった。蜂のようにくびれた腰つきが、なんともいえなかった」

皺が深く刻みこまれた宮田の顔に、うっとりと、夢見るような微笑が浮かんだ。

今でも、少しつま先立ってのびあがれば、信号を渡る若い娘たちの中に、あの日の、あの美しかった恋人の姿を探し出せそうな気がする。

あのころの、あの熱い頬の火照り。

胸騒ぎ。

身体中が浮き立つような晴れやかな気分。

この二十年、絶えて久しく踊ったことのないダンスのステップが、宮田の脳裡によみがえる……。

娘の涼子は、約束の時間に、もう二十分以上遅れていた。

けれども、かつて恋人を待ったのと同じ場所で、今、娘を待つ気分はなかなか悪くなかった。

涼子は宮田の一人娘である。

千葉の田舎町に住む宮田の元を離れて、東京の短大にかよっている。

本人は四年制の普通の大学に行きたがったが、宮田が説得して、無理に短大を選ばせたのだ。

ただ、その一種の見返りとして、東京の大学に行きたいという希望だけは、どうしてもかなえてやらないわけにいかなかった。

宮田は、娘を一人で東京に出すことが、不安でならなかった。

四年間も、と考えると、それだけで全身が慄立つ思いだった。それで、なんとか二年間に短縮させることに成功はしたのだが、宮田の不安は少しも軽くならなかった。結局、四年も二年も同じことだった。涼子が東京に去ってから、宮田はそのことを知った。

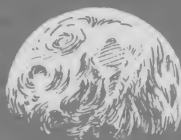
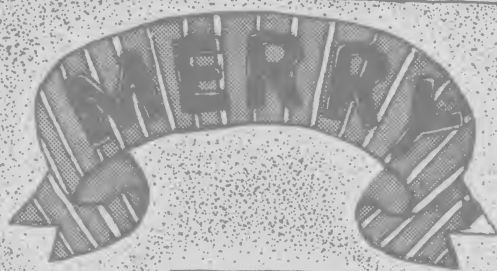
そしてどうやら、宮田の不安は適中したらしい。

昨日、自宅から娘のアパートに電話をして三越の前で待ち合わせる約束をしたとき、涼子の声は暗く沈んでいた。「お父さんに相談したいことがある」とも涼子はいった。その声を聞きながら、宮田は、数日前、東京の親戚から知らせてきた娘に関する悪い噂は本当だったのだと思って、身体中の筋肉が鉛のように重くなるのを感じた。

しかし今日、彼は娘にどんなことを聞かされても、絶対に驚かないつもりである。多少は驚くかもしれないが、怒ったり、感情的になったりはしないつもりだ。

彼は、娘に関する悪い噂や、娘の電話の調子がおかしかったことなどは、妻には伏せて出てきた。言えばかえってややこしいことになる、と彼は思った。娘の涼子がどんな問題をかかえこんだか知らないが、とにかくなるべく上手に、そっと解決することが、娘にも親である自分たちにとってもいちばんよいことなのだ、と彼は考えていた。

宮田が今、娘を待ちながら、ことさら二十年前の楽しい回想にふけっているのはそんな事情があるからである。
涼子に何が起きたか、涼子本人の口から聞いてみるまではわからない。あれこれ想像して気持が固くなるのを避けるために、彼は昔とはすっかり変った銀座に、若い日の幻を探しているのだ。
いい女だった、と、宮田はもう一度、胸の中でつぶやいた。
「いい女だった。今じゃまるで、すもう取りの双津竜みたいだが……」
宮田の口元が歪み、夢見るような微笑に、ほのかな影が加わった。
今、娘の涼子を待っているのと同じ場所で、宮田が二十年前に待っていた恋人というのが、実は涼子の母親である。すなわち、彼の現在の妻である。妻は豚のように肥えて、ほんとうに、幕内力士の双津竜によく似ている。……
宮田は彼女と、この銀座のダンスホールで知り合ったのだった。目鼻だちのくっきりとした派手な顔立ちで、宮田はすぐにいかれた。
宮田はそのころ、東大出のエリート銀行員だった。女はそこが気に入って、彼の恋人になった。
ところが彼女は、顔立ちだけでなく、万事につけて派手好きだった。遊び好きで、贅沢が好きだった。自分の給料だけでは恋人を満足させてやることができなくなった宮田は、とうとう銀行の金に手をつけた。
それから、宮田と彼女との、手に手をとっての恋の逃避行が始まる。
落ち着いた先が、現在も住んでいる千葉の田舎町である。
着いてまもなく、涼子が生まれた。

銀行から横領した金は、親戚中が総がかりで返済してくれたので、彼は犯罪人にはならずに済んだ。
心機一転、発奮した宮田は、その田舎町で妻とともに小さなよろず屋をはじめた。それがこの二十年の間に、急成長につぐ急成長をとげて、宮田の店はいまやその町にただ一軒きりの「デパート」である。もとより彼が今その前に立っている三越とは比較にもならないが、「宮田デパート」の名は、その町だけでなく近郷近在にまで鳴り響いている。
そしてもちろん、宮田はその宮田デパートの「社長」なのである。
彼はこうしたことを、娘の涼子にはずっと秘密にしてきた。自分が東大を出たということさえ話していなかった。
しかし、たぶん、それを娘に話してやるときが来たのだと、宮田は思う。
やり直しがきかないのが人生だが、やり直すことのできる人生もあるさ、と、娘にいってやるときが来たと宮田は思う。
娘に、そう深刻になることはない、気を楽に持ちなよ、といってやろうと彼は思う。
その娘が、とうとう人混みの向うに姿を現わした。若いころの妻と瓜ふたつだ。
だが、ひどく暗い顔をして、何かに脅えたように、落ち着きのない虚ろな目をしている。
「妊娠しているな」
と、瞬間的に宮田は思った。
彼は急に娘が哀れになり、ふと涙ぐんだが、それでも快活にパチンとひとつ指を鳴らすと、気取って、軽くダンスのステップを真似ながら、目の下に隈のできた愛しい娘のほうに近づいていった。

MERRY
SATURN
MOON
沢田としき

僕が
その娘と
逢ったのは
クリスマスの
夜だった
白いレインコート
を着て
その娘はドラッグ
ストアの前に
立っていた

クリスマス……
…………か

もうすぐ今年も終わるんだなまあ、来年になったってどうなるってわけじゃないけれどさ…

Cola

あれ?こっちを見てるぞ!

おじょうちゃんどうしたのこんな夜おそく
!
早くお家に帰らないとママにしかられるよそれともパパか誰かまっているの?

HOTEL
だれもいないよ

STANDBAR
え？
こっち？

YOU!

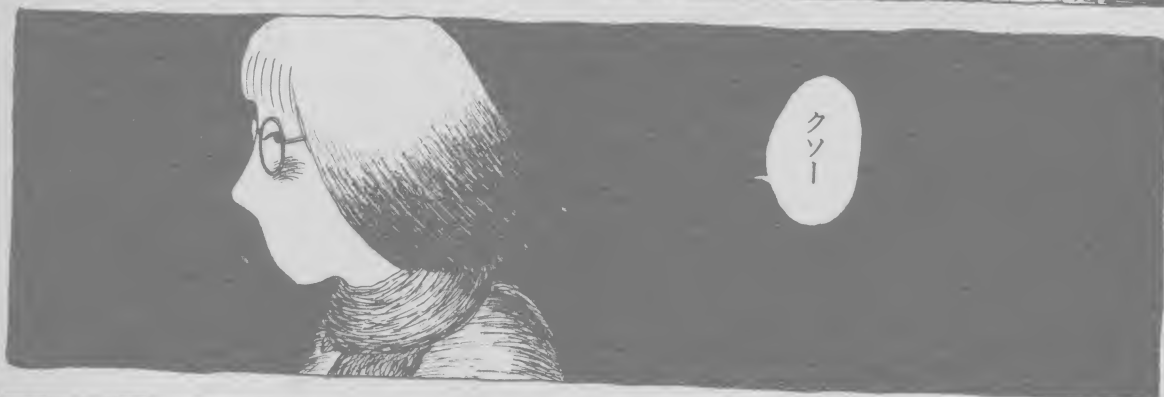
僕？
人ちがいじゃない？
僕はねェ……

SODA
CIGARS
DRUGS
LLIARDS
お、おい！
ちょっとまちなよ!!
きみ、僕を
からかっているのかい
まちなってば！
ツカ
ツカ

おい！
ふざけるなよ
まったく
HoTel

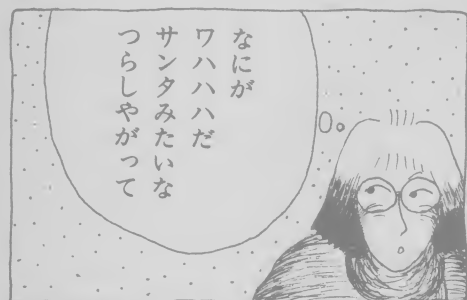
おいってば

フン、
勝手にするさ
僕は帰
るよ

クソー

わかったよ
おい、きみ
ついてゆくから
まってってば
CLOWN

ウウー
このガキ
大人を
からかいやがって
ベエー！

HOTEL
NIGHT. SERVICE.

コレハ、やっぱり
何かの
まちがいだ
キットソーダ!!

えー?

いきたいところにいつでもいける!
LeTs Go!!
美人がいっぱい
波がザブーン
ハワイ
一週間の旅
ROCパック
インフレとんでけ!
R・P
FucKYou!
KILL me

男と女が
ホテルに
入って
することと
いったら…
HOTEL
2F

ハーイ
ハーイ
ルームNo.3ね
OK?

メリークリスマス!
色男さん!!

ハッ!
あ、メ、メリー
クリ
クリス
マス!
ハハ
あ、どうも
ワッハハハ
イヤー
めでたい!

なにが
ワハハハだ
サンタみたいな
つらしやがって

信じられ
ないけど
ひょっとして

……………いや
ひょっとしなくても
この娘は娼婦
ガチャ!
ROOM 3

しかし………
こんな若い
女の娘が………

娼婦だなんて
信じられないよ…
ガチャ

ねえ！

こりゃ、いったい……

どうなってるんだ

まいったね
まったく

僕をそんな
男だと思ったら
大まちがいだぞ、この—…
オッホン！
?
よし……
君は何か
かんちがいしてやしないかい？
僕は
そ、そんなつもりで
声をかけたんじゃないんだ
てれなくてもいいわ
ねエ、タバコある？

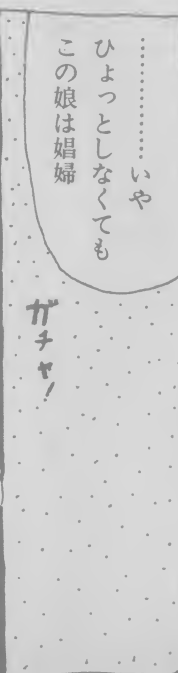
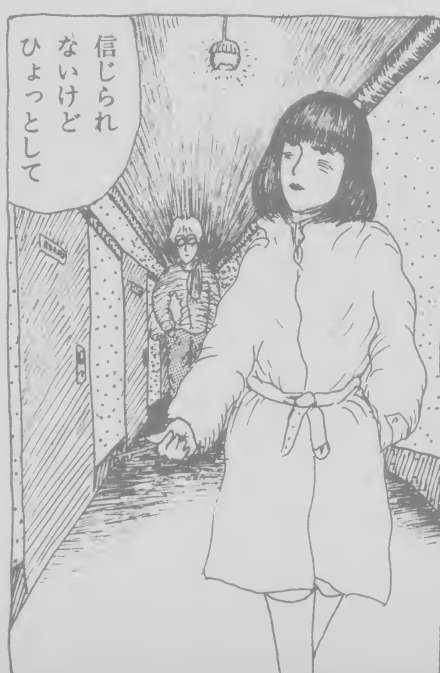
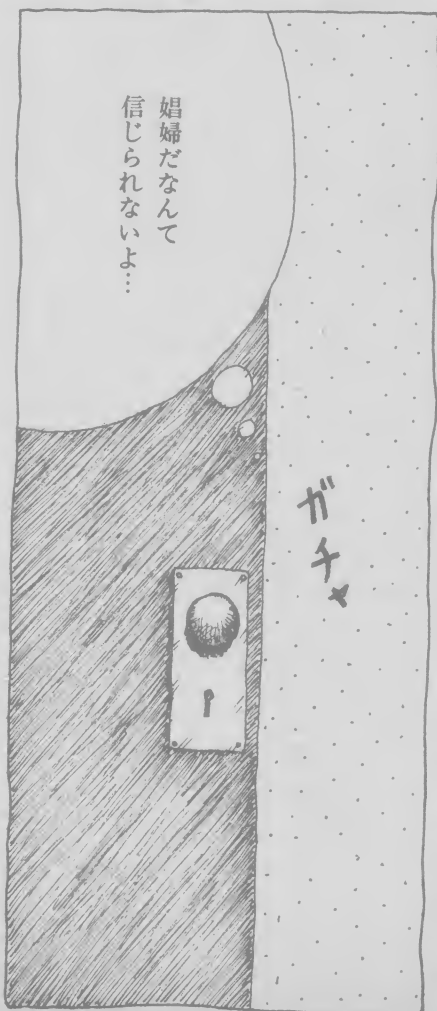
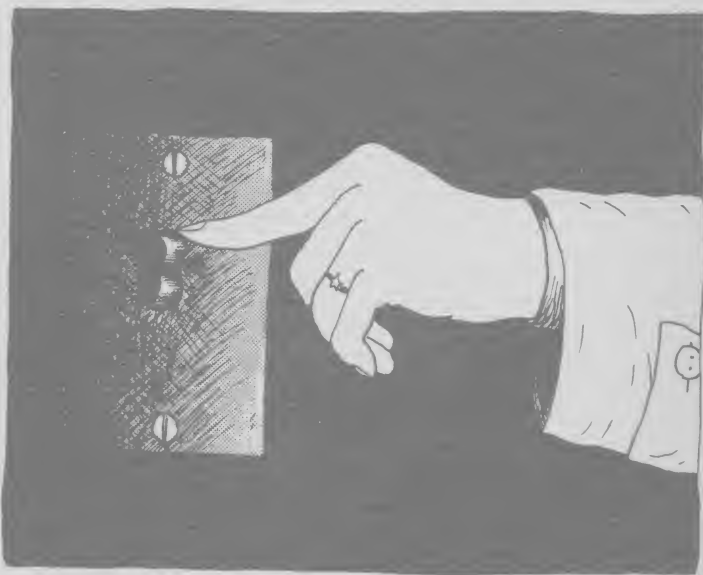
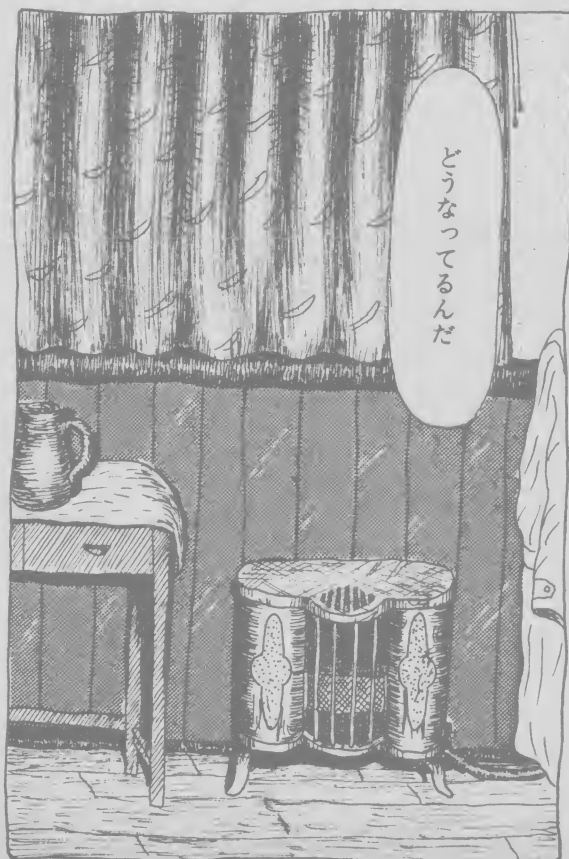
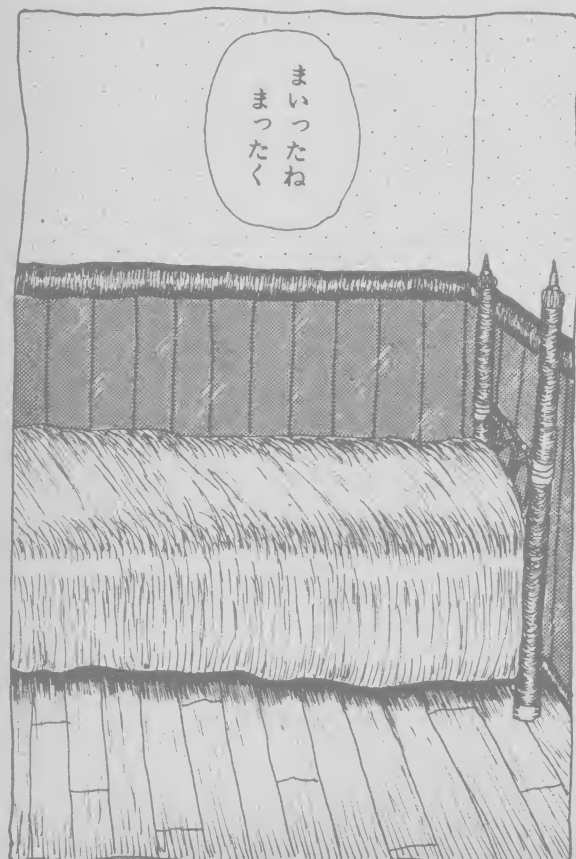
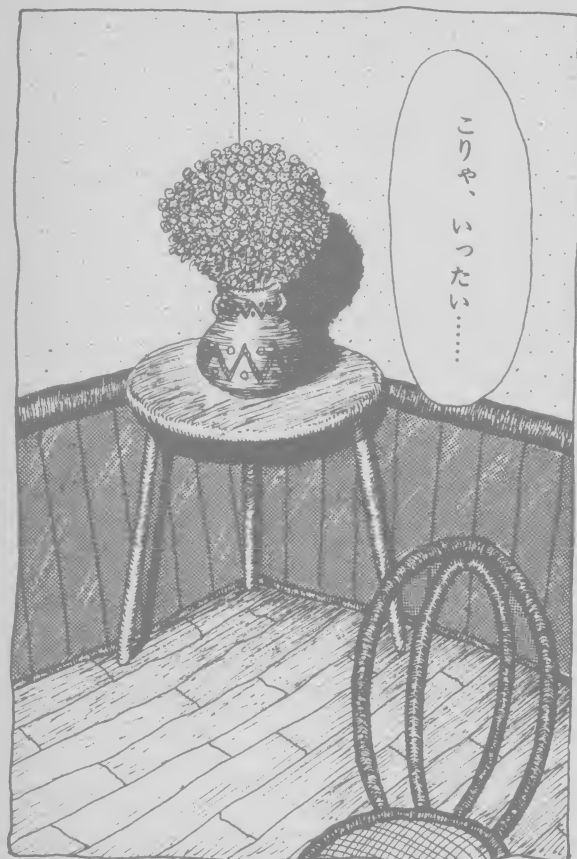
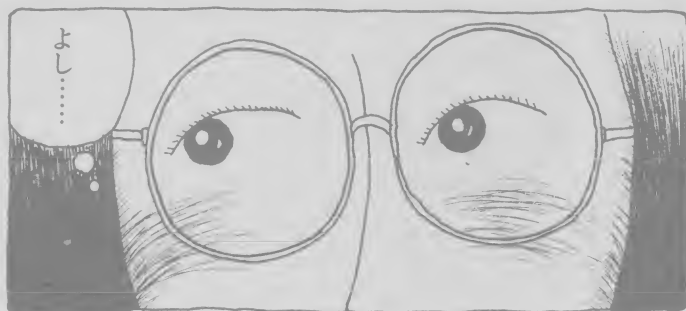
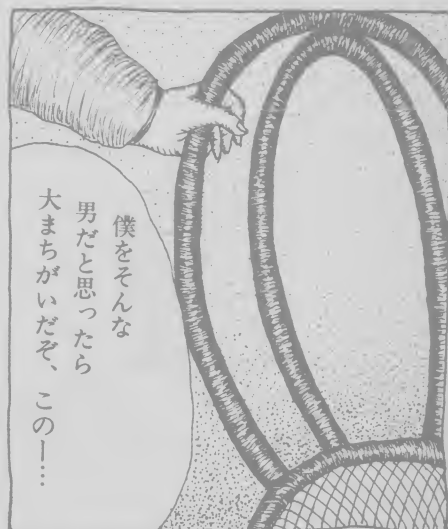
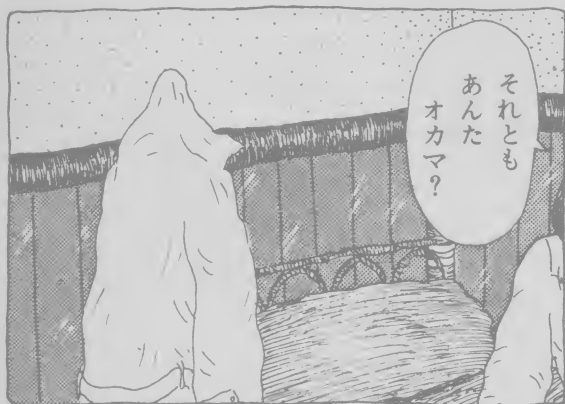
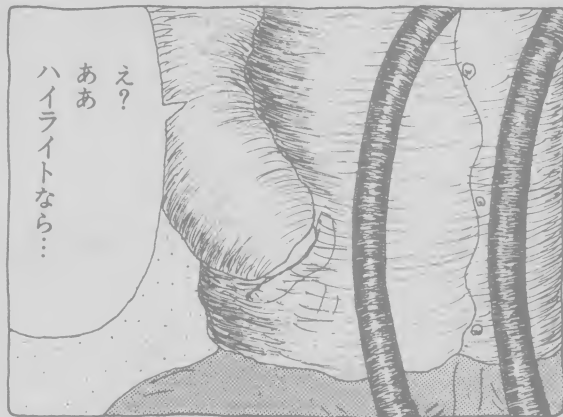
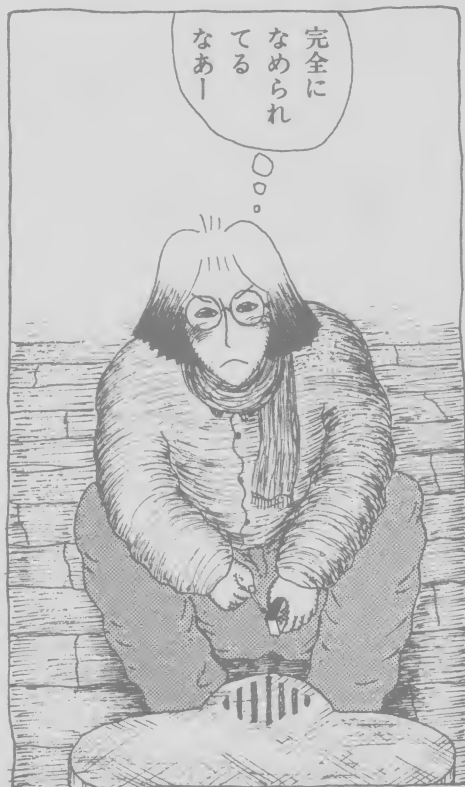
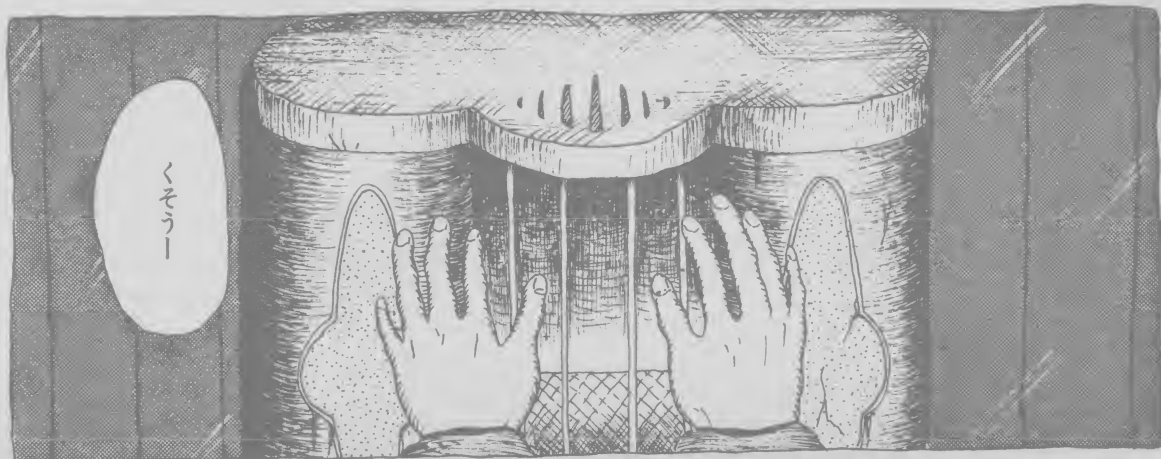
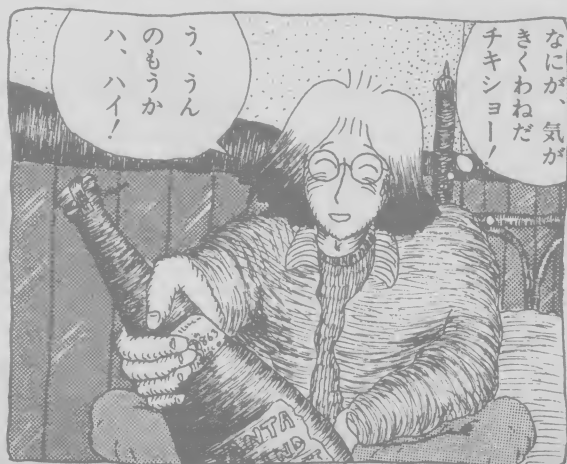
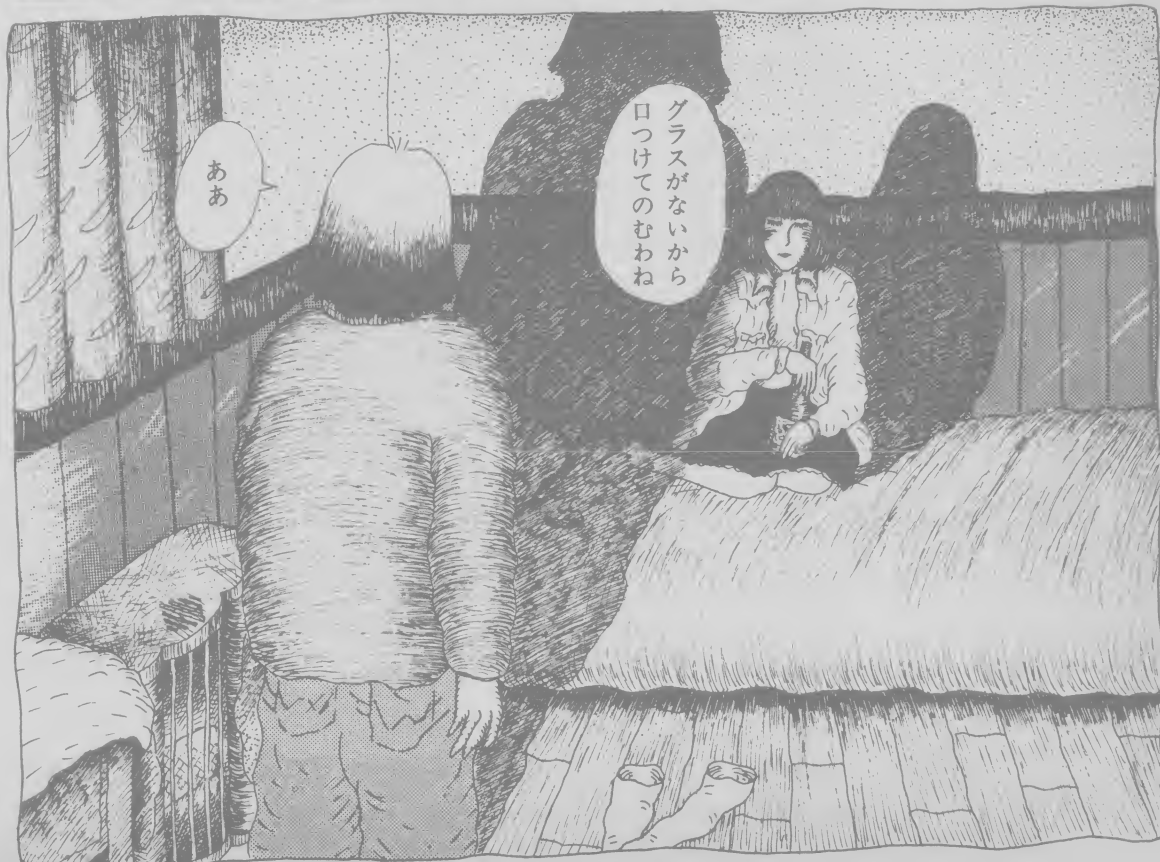
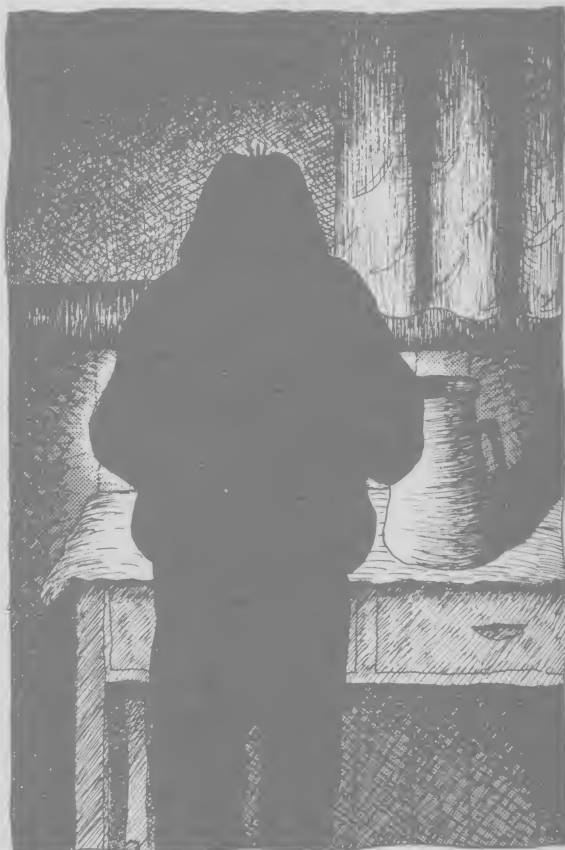
え？
ああ
ハイライトなら…

きみまだ未青年だろ
いいけどさあ……
つまり僕の
言いたいのは…
………

そんな事、
どうだっていいでしょ

フー、
どうせひまなんでしょ
いいじゃない

それとも
あんた
オカマ？

ウー！
オカマだって
クソー

まったくちかごろのガキは
ませてやがるなあー

何、考えてるか
わかったもんじゃない！

ストーブの火
入れてちょうだい

完全に
なめられ
てる
なあー

くそうー

こんな商売するには君はまだ若すぎるように思うんだけれど……きみ名前なんていうの?

メリー
若いからって
バカにしないで
私が何をしようと
勝手でしょ
それに年なんて
関係ないわ

そんな事言ったたって
こんなのよくないよ
他にできる事は
いくらでもあるだろう

君
いくつ
16くらい
かい？

13、

え！
13!!
まだハイスクール
にも上がって
ないじゃんか

僕の13の頃と
いえば………
死ね！
PAN
HELP!

僕、
20ね

かえろう
かな
それ何？

あ、こ これ？

こ、今夜はクリスマス
だから、シャンペン
でも 飲もうと、
思って

あら、気がきく
わね
のまない？

なにが、気が
きくわねだ
チキショー！
う、うん
のもうか
ハ、ハイ！

タバコ
とってくれない
ウーン！

今夜はクリスマス
なんだから
おたがいたのしく
やりましょうよ

ちぇ！
ちょうしいいの

あれ！

停電か
そうみた
いね
ポン!!

つくえの上に
ろうそくがあったわ

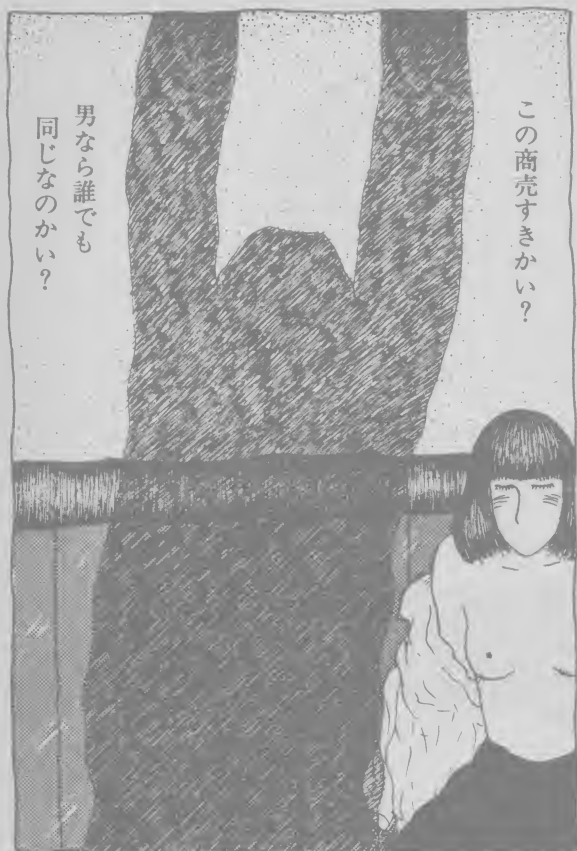
ついたよ…

グラスがないから口つけてのむわね
ああ

カンパーイ！

フーッ
オイシ

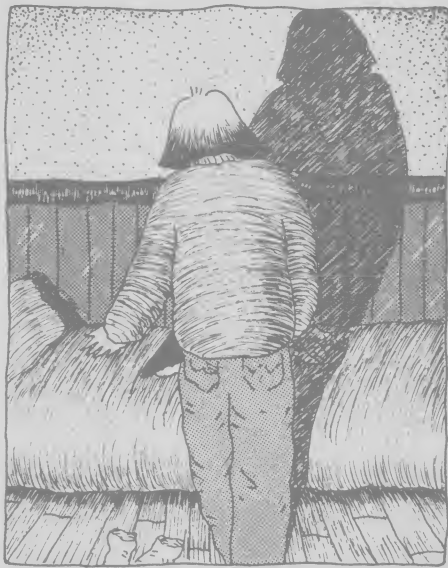
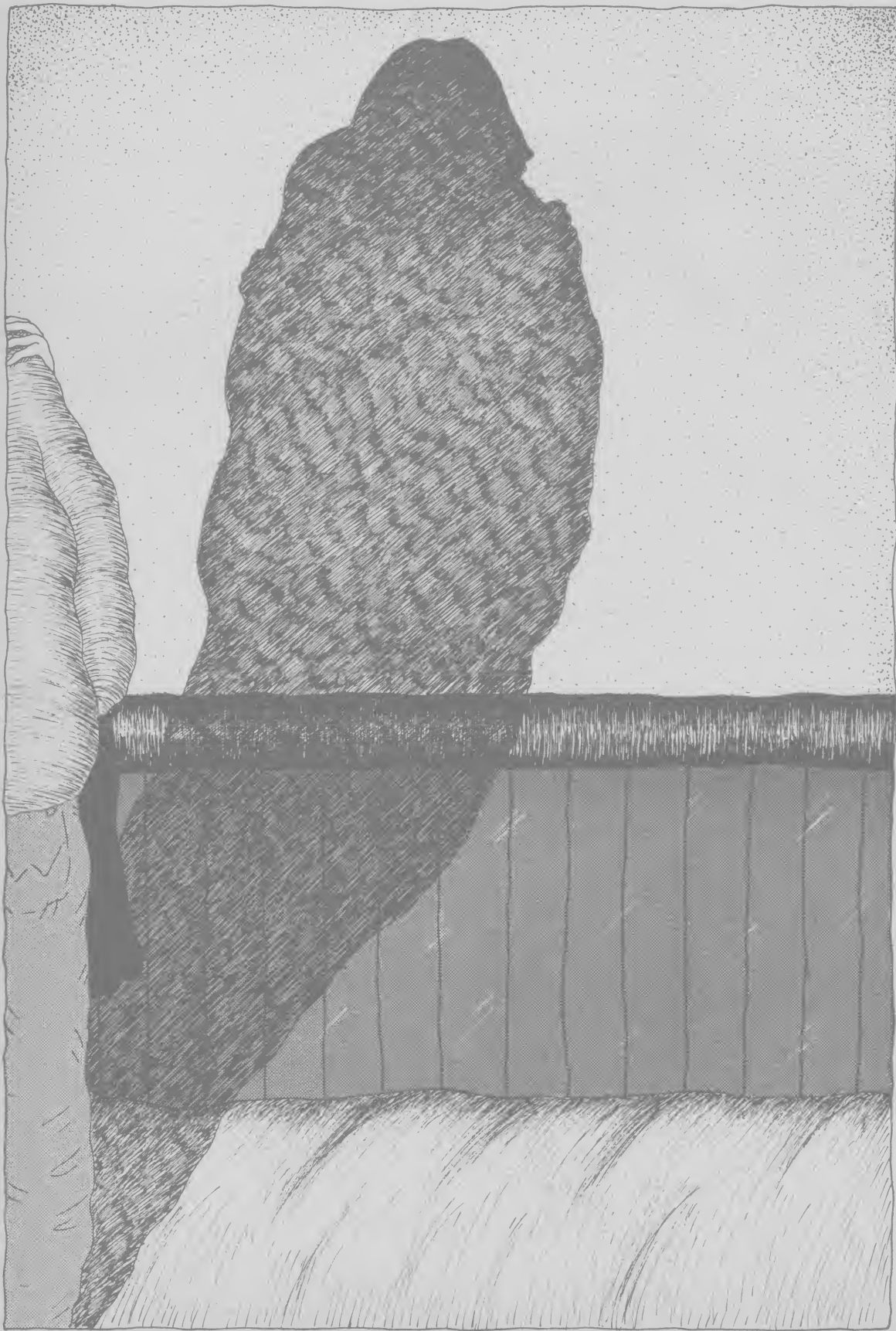
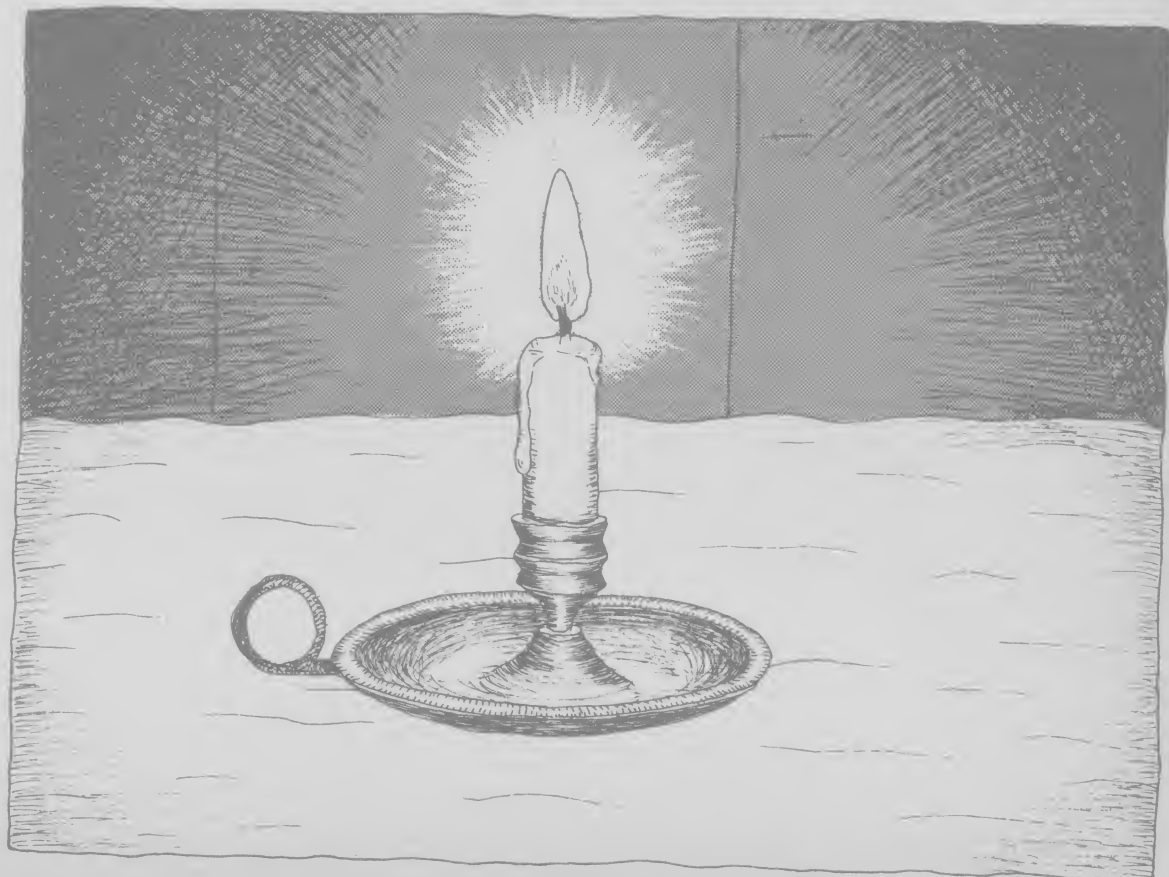
何よ

なぜ
こんな商売してるの?

自然にか………
お金をはらえば、誰とでもねるの？

この商売すきかい？
男なら誰でも同じなのかい？

人をすきになったりしないのかい
ねえきみ

………僕は………

50ドルよ

結局　僕は
何だかんだ言いながら
はじめて逢った
13才の
その娘と
ねてしまった

次の夜、僕はその娘に
逢いに、ドラッグストアの
前に行った
SODA
CIGARS
DRINK
MAGARI
CHINPO
IZUMIYA

けれども
その娘は
いなかった
2700 BT
LEASING OFFICE

自分じゃ
よくわから
なかったけれど

いつのまにか
僕は
あの生意気
な娘を
すきになって
いたのかも
しれない

Coca-Cola
DRINK
SODA
CIGARS
DRUGS

どれくらい
待ったのか
忘れたけれど
あの娘は、
ついに、
やっては来なかった
……………

メリー………

ENDLESSLY.